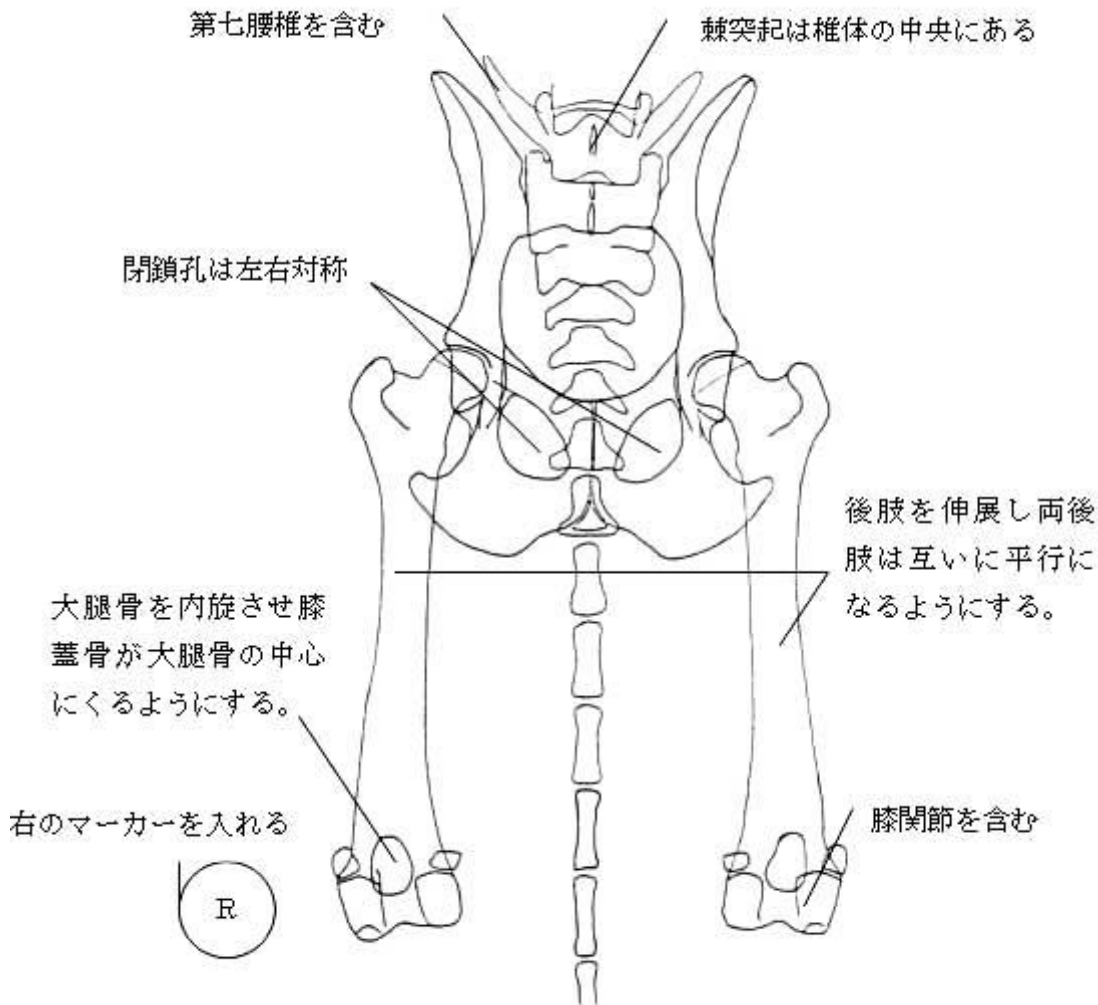


股関節の撮影法

- ・ 仰臥位保定する（鎮静または麻酔が推奨されるがなくてもかまいません）
- ・ 大腿骨がテーブルと平行になるように後肢を伸展し、両後肢は互いに平行にする
- ・ 肢を内旋させ、膝蓋骨が大腿骨の中心になるようにする
- ・ 骨盤は対称性であること
- ・ 閉鎖孔は左右対称であること
- ・ 第七腰椎と膝関節を含む像であること
- ・ 第七腰椎の棘突起は椎体の中央にくるようにする
- ・ レントゲン撮影条件は寛骨臼背側縁が明瞭に観察できる条件に設定する

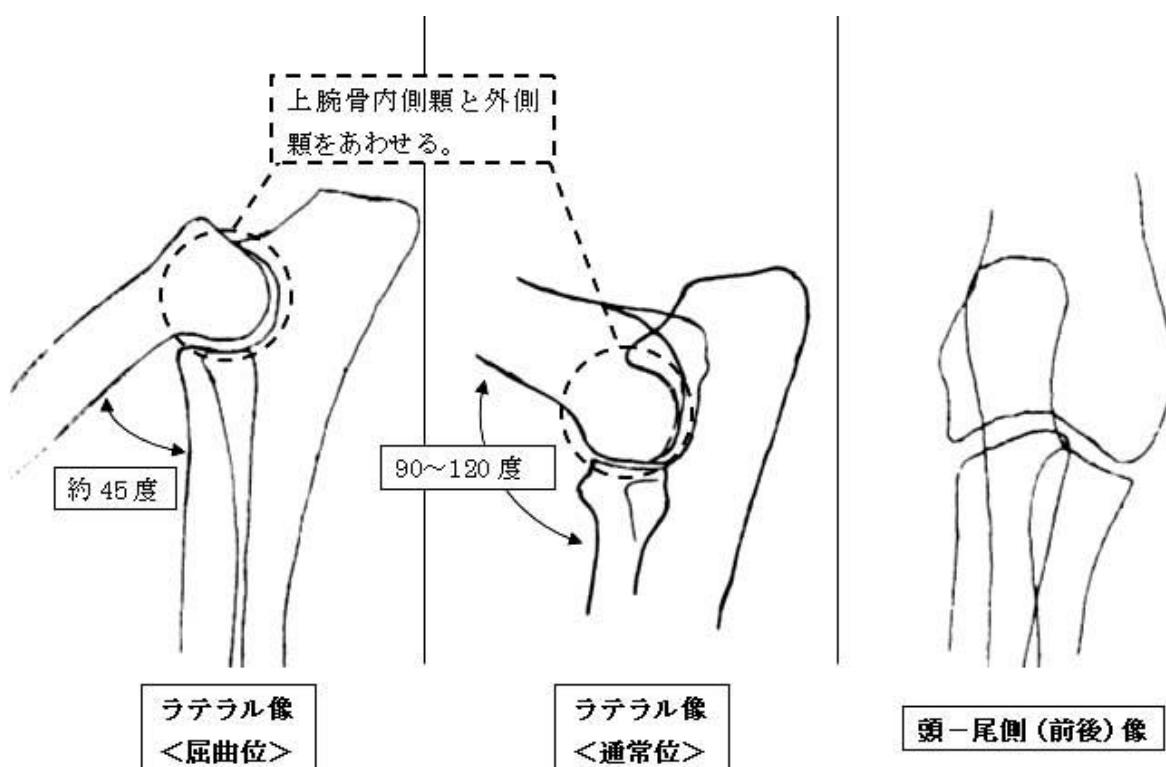
股関節伸展腹背方向の X 線撮影法



フィルムには、撮影年月日と撮影した犬の名前（血統名）、血統書登録番号、動物病院名あるいは団体名を記入してください。

肘関節の撮影法

- ・ 下の図のように、2方向、3ポジションでの撮影が推奨されますが、申請には屈曲位、通常位でのラテラル像が必要です
- ・ 撮影は左右の肘関節でそれぞれ行なう
- ・ ラテラル像では撮影する肢を下側に横臥位保定する
- ・ ラテラル像では内側 外側方向にレントゲン撮影する
- ・ 左右の肢が解るようマーカーを入れる
- ・ グリッドは使用しない



フィルムには、撮影年月日と撮影した犬の名前（血統名）、血統書登録番号、動物病院名あるいは団体名を記入してください。



膝蓋骨脱臼の評価方法

- ・ 犬を四肢で起立させ、獣医が犬の後方から触診し、脛骨稜・膝蓋靭帯・膝蓋骨の位置・アライメントと動揺性を確認する
- ・ 犬を横臥位に保定（検査肢を上側にする）
- ・ 膝関節を伸展位に保持する
- ・ （内方脱臼を検査する場合）獣医の片方の手で脛骨を内旋させると同時に反対側の手で膝蓋骨を内方に圧迫して膝蓋骨の変位を触診する
- ・ （外方脱臼を検査する場合）獣医の片方の手で脛骨を外旋させると同時に反対側の手で膝蓋骨を外方に圧迫して膝蓋骨の変位を触診する

Grade 1

膝関節を完全伸展し、手で膝蓋骨を押すと容易に脱臼するが、手を離すと滑車へ戻る。関節摩擦音はしない。脛骨稜の内側への変位（膝蓋骨の外方脱臼では脛骨稜の外側への変位）は最小限であり、脛骨のとてもわずかな捻れが認められる。足根関節の外転はなく、膝関節は直線的に屈曲・伸展する。

Grade 2

しばしば膝蓋骨脱臼がおこる。患肢は時々挙上するが、膝をわずかに曲げたままの状態に負重している。特に麻酔下では、多くの場合、手で脛骨を外側に回転させることによって脱臼を整復することが可能であるが、手を離し関節の緊張を解くと膝蓋骨は簡単に再脱臼する。30度ほどの脛骨の内旋と脛骨稜のわずかな内側への変位がある。膝蓋骨が内側に外れた状態のとき、足根関節はわずかに外転する。両側性である場合は、より体重を前肢に移動する傾向にある。

このグレードの多くの犬は長い年月をある程度良好な状態で生活する。しかし、滑車の内側の滑車稜を越えて絶えず続く膝蓋骨の脱臼により、膝蓋骨の表面と内側唇の近位部分の糜爛をおこす。この結果、関節摩擦音が膝蓋骨を手で脱臼させるときに明らかとなる。

Grade 3

膝蓋骨が恒久的に脱臼している。脛骨の回旋と頭-尾側平面から 30～50 度の間での脛骨稜の変位を伴っている。多くは膝を半屈曲位に保持した状態で肢を使う。滑車はとても浅いか一様に平らである。

Grade 4

膝蓋骨は恒久的に脱臼している。脛骨は内側にねじれていて、脛骨稜はさらに内側への変位がある。その結果、脛骨稜は頭-尾側平面から 50～90 度の間に位置する。膝蓋骨は内側顆より上に位置し、膝蓋靭帯と大腿骨遠位端との間に間隙を触知することができる。滑車を欠く。あるいは一様に凸状である。患肢は挙上しているか、患肢を屈曲し、しゃがんだ状態で移動する。